



平成 23 年 11 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社クレディセゾン
代 表 者 名 代表取締役社長 林野 宏
(コード番号 8253 東証第一部)
問 合 せ 先 広 報 室 長 大 阿 久 学
(TEL. 03-3982-0700)

平成 24 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異
及 び 通 期 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想 の 修 正 に 関 す る お 知 ら せ

平成 23 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 24 年 3 月 期 第 2 四 半 期 累 計 期 間 (連 結 ・ 個 別) の 業 績 予 想 と 本 日 公 表 の 実 績 に 差 異 が 生 じ ま し た の で 、 下 記 の と お り お 知 ら せ い た し ま す 。

また、最近の業績動向等を踏まえ、平成 23 年 5 月 13 日に公表いたしました平成 24 年 3 月 期 通 期 (連 結 ・ 個 別) 業 績 予 想 を 下 記 の と お り 修 正 い た し ま し た の で お 知 ら せ い た し ま す 。

記

1. 業績予想と実績との差異

(1) 平成 24 年 3 月 期 第 2 四 半 期 (累 計) 連 結 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異
(平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	131,000	12,500	15,000	10,000	54.46
今回実績値 (B)	127,555	21,833	24,970	17,513	95.37
増 減 額 (B-A)	△3,444	9,333	9,970	7,513	—
増 減 率 (%)	△2.6	74.7	66.5	75.1	—
(参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 3 月 期 第 2 四 半 期)	145,266	13,684	17,626	9,966	54.27

(2) 平成 24 年 3 月 期 第 2 四 半 期 (累 計) 個 別 業 績 予 想 と 実 績 と の 差 異
(平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 9 月 30 日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	108,500	10,500	12,000	8,000	43.55
今回実績値 (B)	105,462	18,498	20,222	13,675	74.44
増 減 額 (B-A)	△3,037	7,998	8,222	5,675	—
増 減 率 (%)	△2.8	76.2	68.5	70.9	—
(参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 23 年 3 月 期 第 2 四 半 期)	122,411	11,094	13,111	6,497	35.36

2. 通期業績予想の修正

(1) 平成24年3月期通期連結業績予想の修正 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	261,000	24,500	30,000	17,000	92.58
今回修正予想 (B)	257,000	36,500	42,500	25,000	136.14
増減額 (B-A)	△4,000	12,000	12,500	8,000	—
増減率 (%)	△1.5	49.0	41.7	47.1	—
(参考) 前期実績 (平成23年3月期)	285,712	27,377	33,762	12,829	69.86

(2) 平成24年3月期通期個別業績予想の修正 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	216,000	20,500	23,000	13,000	70.76
今回修正予想 (B)	213,000	32,500	35,000	20,500	111.59
増減額 (B-A)	△3,000	12,000	12,000	7,500	—
増減率 (%)	△1.4	58.5	52.2	57.7	—
(参考) 前期実績 (平成23年3月期)	239,657	25,484	28,706	7,596	41.34

3. 差異及び修正の理由

第2四半期累計期間における営業収益については、東日本大震災による個人消費の低迷等の影響を受けたものの、営業費用については、債権管理の強化により債権の良質化が進展したことに加え、弁護士・認定司法書士等による第三者介入債権の沈静化傾向に伴う貸倒引当金繰入額が減少したこと、さらには、コスト削減等により経費の抑制が進んだ結果、営業利益、経常利益及び四半期純利益は前回予想を大きく上回る結果となりました。

また、通期（連結・個別）業績予想については、厳しい経営環境が継続することが予想されますが、第2四半期累計期間の実績を踏まえ、営業収益、営業利益、経常利益及び当期純利益をそれぞれ見直した結果、前回予想の業績予想を修正いたします。

※上記に記載した予想数値は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上